

地域総合（統合）型スポーツクラブ

【具体的形態】

- ・ 最終的な形態としては大磯町に*「総合型地域スポーツクラブ」を設立して地域社会全体で子どもから大人までのスポーツ活動を支えていく。
 - *「総合型地域スポーツクラブ」とは、今まで行政や学校や企業が担ってきたスポーツを地域住民に運営の主体を移し、行政や学校や企業はそれを支える役割を担っていくもので、日本のスポーツのあり方を大きく転換するもの。この背景にはこれまでスポーツを支えてきた学校と企業の基盤が揺らぎ始めてきたという現実がある。
- ・ 中間的な形態として大磯中と国府中に「大磯中スポーツクラブ」「国府中スポーツクラブ」を作り、複数のスポーツ種目を持ったクラブとする。クラブは種目によって「部」に分かれ、クラブ全体の運営には中学校教員、コーチ（地域指導者）、「部」代表の保護者を主とし、必要であれば教委や体育協会が加わる。また、生徒の部長も必要に応じてクラブ運営の話し合いに参加する。したがって、今までの部活動はクラブの活動となり、練習や練習試合はクラブの責任で行う。
- ・ 学校は教員が運営委員としてクラブの運営に加わることで、コーチとして活動にさんかすること、学校の運動場や体育館を提供することでクラブをサポートする。
- ・ 行政（教委）は町の施設の使用に便宜をはかったり、コーチの人選やコーチの教育研修などでクラブに協力する。また、町はクラブ運営のための経済的な補助をする。

【条件】

- ・ 学校外のクラブ活動ではあるが、対外的には学校の部活動と同じ扱いを受けること。
- ・ 部費については見直しをして、他の部活動との公平をなるべく保つようつとめる。
- ・ 中体連大会のための引率顧問を充てる。
- ・ 導入の始めは、ある程度教委や学校が運営を主導していくことになると思うが、徐々に主体を保護者や地域住民に移していく方向を確認すること。そうでないとクラブ会員の自主自立的な活動になっていかない。
- ・ 「部」間の交流、意志の疎通につとめる。そのために、シーズンによっては基礎体力トレーニングなど合同練習を行うことも考えていく。

【課題等】

- ・ 中学生の心身の健康やスポーツについて正しい知識を持ち、中学生と大人の集団をまとめていく力と情熱を持った、クラブ運営の核になる人を発掘できるか。または育てていけるか。
- ・ クラブ運営に関わってもらえる人材が確保できるか。各部活動の運営のほかにクラブ全体の運営が付け加わることになるので、無償ボランティアとして運営委員を引き受けてもらうのは無理がある。
- ・ 中体連にクラブが加盟できるようはたらきかけること。
- ・ まだまだたくさんあると思いますが、とりあえず思いつくことのみ。